

## コラム ガリレオスピリット

月の表面がでこぼこであること、木星のまわりを四つの小さな天体が回っていることなど、数々の新発見をしたガリレオ・ガリレイの偉業はここで述べるまでもありませんが、ガリレオの偉大さは、こういった発見のみならず、それまで当然のように言い伝えられていた事象をあらためて自分の手を使い目を使って確かめた（実験、観測）ことに尽きます。「なぜそうなるか」(理由)だけでなく、「どのようにしてそうなるのか」(プロセス)を明らかにしようとしたことが、アリストテレス的宇宙観を覆す発見に結びついたのでした。

また、実験や観察に必要な道具も自らの手で作り出していました。彼の手によって、「遠眼鏡」(1608年にオランダの眼鏡職人が発明)と呼ばれる遠くの地上のようすを見るための道具(戦争で便利に使われた)は、宇宙の謎を解き明かす重要な道具へと発展を遂げたのです。しかも驚くべきことに、交通や情報通信が今ほど発達していない17世紀初頭において、遠い異国の地で発明された翌年にはその情報を入手し、自ら試行錯誤を重ね「天体望遠鏡」と呼ぶべきものを作ってしまったこと、また、それを生涯をかけて何本も自作したことです。

ガリレオの発見にスポットが当てられがちですが、こうした彼の“スピリット”もこの世界天文年を機に注目したいものです。

## PART 1

# 世界天文年2009の 基礎知識

世界天文年とはどのような年なのか。その趣旨や経緯、組織、取り組みなどの概要をコンパクトにまとめました。また、問い合わせの多い企画については参加方法を解説してあります。どうぞ世界天文年2009へのご理解・ご賛同をお願いいたします。

執筆・構成 世界天文年2009日本委員会事務局